

CBAP[®] 合格体験記

日本メドトロニック株式会社

中尾 直樹

私は現在、米国ミネアポリスに本社がある医療機器メーカーの IT 部門に所属し、IT ビジネスアナリストとして仕事をしております。品質関連のグローバルアプリケーションを、日本をはじめアジアの各拠点への導入することが主な役割です。

今までビジネスアナリストとして仕事をしてきましたが、自己流で一度体系的に学習したいと思い、先に投稿されている林さんや塩田さんと富士ゼロックス総合教育研究所の 3 日間の講習を 2010 年の 12 月に受講しました。BABOK[®]を理解するだけであれば CBAP[®]の資格を取得しなくても BABOK[®]を読む、あるいはビジネスアナリストの講習を受ければ良いのではないかと思われるかもしれませんが、私も最初は講習を受けて BABOK[®]を理解できれば良いと思い、CBAP[®]の資格取得は考えていませんでした。しかし、講習を受けた後に、仕事で役立てていくためには BABOK[®]をより深く理解する必要があると感じました。そのためには CBAP[®]試験を受けて、受験勉強することが最も早い方法ではないかと考え、結局 CBAP[®]試験を受けることにしました。既に他の合格者の方たちが体験記を書かれているので、重複する部分もあるかと思いますが、これから CBAP[®]試験の受験を検討されている方の何らかの参考になれば幸いです。

出願から受験までの一連の流れは出願申請マニュアルである『CBAP[®]ハンドブック』に記載されています。

出願から受験までの一連の流れ

1. IIBA のホームページからオンラインで出願する
2. IIBA による審査、承認後に振り込みにて受験料を支払う
3. Castle Worldwide 社の Web サイトで試験日を選択して登録する
4. 受験勉強
5. 受験

この一連の流れに沿って私が体験した内容を書かせていただきます。

受験出願

2010 年 12 月に講習を受ける前からビジネススクールに行くことを決めていたので、ビジネススクールの出願手続きや受験勉強で忙しくなる前に CBAP[®]試験の出願審査を終わ

らせておく必要がありました。出願審査は IIBA のホームページからオンラインで行います。PMP との違いは、出願するだけで受験料とは別に出願料 125 米ドルがかかる点です。これは IIBA のホームページからクレジットカードで支払うことができます。出願するためには以下の要件を満たしている必要があります。

1. 過去 10 年間にビジネスアナリストとしての業務経験が 7,500 時間以上あること
2. 6 つの知識エリアのうち 4 つの知識エリアでそれぞれ 900 時間以上の業務経験があること
3. 過去 4 年間にビジネスアナリシスに関する教育実績が 21 時間以上あること
4. 2 通の推薦状
5. 行動規範に同意すること

この 5 つの要件の中で一番大変だったのは 1. と 2. の業務経験の棚卸しでした。過去 10 年間に携わったプロジェクト毎に経験したビジネスアナリシスのタスクの時間数を *BABOK*[®] の 6 つの知識エリアごとに入力していきます。これらの時間数の合計が 7,500 を超えている必要があります。それに加え、4 つの知識エリアでそれぞれ 900 時間を超えている必要があります。

ここで注意が必要なのは、タスクの一覧にはビジネスアナリシス以外のタスクが含まれていることです。たとえばプロジェクトマネジメントのタスクがこれに該当します。これらのタスクの時間数がカウントされないため、時間数の合計が 7,500 時間以下になってしまう可能性があります。そうなると出願審査で却下されてしまうので、また 125 ドルを支払って再出願することになってしまいます。

私は当初エクセルでプロジェクトごとにタスク一覧を作成して時間を入力しようと思っていました。しかし、IIBA のホームページからタスクをコピーするのに時間がかかるので、もっと良い方法はないかと思いネット検索したところ、エクセルのツールを見つけました。そのツールではタスクの一覧と計算式が既に提供されていたので、かなり手間を省くことができました。これから出願される方はネット上でこのようなツールが提供されているので検索されてみてはいかがでしょうか。

3. の 21 時間以上の教育実績については富士ゼロックス総合教育研究所の 3 日間の講習を受講したので要件を満たすことができました。4. の 2 通の推薦状について、私は今の職場の上司 2 名にお願いしました。快く引き受けてくださったのでありがたかったです。推薦状に関しては提出期限があるので、それまでに推薦状を IIBA のホームページに UP してもらう必要があります。事前に説明し、依頼後もフォローされることをお勧めします。

受験料の支払い

富士ゼロックス総合教育研究所の講習と合格体験から事前に情報を得て準備できたことや、講習の講師である伊藤さんに不明な点に関して教えていただけたため、運良く 1 回で

出願審査に通ることができました。これでやっと試験を受験できる資格を得たこととなります。

この後は受験料の振込みです。郵便局に行って窓口の人に郵便小為替の手続き方法を説明してもらい、受験料（会員価格 325 ドル）をアメリカに郵送しました。受験料はクレジットカードでの支払いができないため、とても不便です。郵便小為替だと、まず郵便局に行く必要があります、その上別途 2,000 円の国際郵便料金を支払わなければなりません。これから受験される方のためにも早急に改善してもらいたいです。

試験の申し込み

2 月下旬まではビジネススクールの出願、試験勉強で忙しいため、3 月から CBAP[®]試験の受験勉強を開始することにしていました。受験勉強には最低 3 週間が必要だと考え、試験日を 3 月 20 日で申し込みました。

Castle Worldwide 社から届いた E メールに添付されていた URL から試験を申し込んだのですが、いつまでたっても確認のメールが届きません。そこで Castle Worldwide 社に問い合わせると、希望する試験日を聞かれ伝えたところ、その後しばらくしてやっと確認メールが届きました。スムーズに進まない部分もありましたが、Castle Worldwide 社の対応は早かったのも、それほどストレスは感じませんでした。念のためテンプル大学に試験の申し込みが完了しているか確認したところ問題ないとのことだったので、あとは 3 月 20 日の試験に向けて受験勉強に集中するだけでした。

受験勉強

受験勉強は富士ゼロックス総合教育研究所の講習の教材と BABOK[®]の英語版のみを使用しました。IIBA の会員になると BABOK[®]の英語版は IIBA のホームページからダウンロードできたので、それを印刷して使っていました。今から思うと BABOK[®]は今後も継続して使うことになるので、英語版と日本語版両方の書籍を購入していたほうが良かったのかもしれない。英語のみの試験なので BABOK[®]の英語版しか使っていなかったのはプラスに働いたかもしれませんが、実際のところあまり定かではありません。

CBAP[®]試験の対策本は、英語版ですがアマゾンなどでいくつか販売されています。そのような対策本も検討してみましたが、勉強時間も限られているため、講習の教材をじっくり勉強するほうが良いと考え使いませんでした。講習の教材には日本語の模擬試験 150 問が 1 セット、英語版 150 問が 2 セット含まれていたもので、それらを 2 回ずつやって、間違った問題やわからない点は BABOK[®]で調べて理解するようにしました。

受験

試験日は 3 月 20 日で申し込んでいましたが、3 月 11 日に東日本大震災が発生し、予定どおり試験を受けられるかわからない状況でした。テンプル大学に電話をして確認したと

ころ、震災のため、ほとんどの試験は中止になっていました。ところが CBAP®試験について確認してもらったところ、試験を受けられることがわかりました。また、このような状況なので試験日を変更することも可能で、どちらにするか決めてくださいということになりました。試験を受けるにしても余震や計画停電で電車が動かないかもしれないし、電力不足による計画停電を実施していたので、テンプル大学のある港区は大丈夫ということでしたが、試験中に停電になる可能性もゼロではありませんでした。試験を受けるかどうか正直迷いました。震災後のこのような時に試験を受けていて良いのだろうかという気持ちもありました。

しかし、試験日を延期するにしてもいつまで延期すればよいのかわからず、これ以上モチベーションを維持できるか自信もなかったのが、リスクはありましたが、予定どおり 3月 20 日に試験を受けることにしました。試験当日は他の試験は中止になっていたということもあり、私一人でした。試験担当の方は 2 名いて、私一人のために震災後のこのような時に仕事をさせてしまい申し訳ない気持ちになっていました。これは絶対に合格しないといけないという思いと、申し訳ない気持ちとが交錯していました。

いよいよ、試験開始です。最初のほうの問題は難しく、模擬試験でも出てこなかった問題ばかりでした。私は少しあせりながら、とにかく解答していきました。後半は前半と比べるとそれほど難しくはなかったので、あせることなく解答できたと思います。前半の問題が難しかったため合格できるかどうかは微妙でした。最初のほうの問題は解答に自信が持てなかったのが、余った時間で見直しをしました。そして時間切れとなり試験終了。

アンケートに入力後に、“Congratulations” と表示され、合格したことがわかってほっとしました。テスト結果の印刷がないので不安に思い、担当の方に聞いたところ、CBAP®試験ではテスト結果は印刷されないということでした。手元にテスト結果がないと少し不安が残るため、PMP 試験のように印刷したテスト結果を提供していただきたいと思いました。

最後に

今後益々企業のグローバル化が加速していく傾向にあります。ハイコンテキスト文化とローコンテキスト文化という言葉をご存知でしょうか？ハイコンテキスト文化とは伝える努力をしなくても意思の疎通ができる環境で、たとえば「阿吽の呼吸」がこれにあたります。日本はハイコンテキスト文化だと言われていています。一方、欧米は言語や文書によって意思の疎通を図ろうとする環境で、ローコンテキスト文化だと言われていています。

グローバル化社会では、異なる言語や文化を持ついろいろな国の人たちと一緒に仕事することになります。そのような環境では言語や文書によって意思の疎通を図る必要があり、ローコンテキスト文化が有利だと言われていています。しかし、国によって違う概念や用語が使われると、意思の疎通を図ることができません。

BABOK®は世界共通の概念・用語を提供してくれているので、グローバルプロジェクト

でビジネスアナリシスのタスクを円滑に行っていく上で、その活用のメリットは大きいと感じています。より多くの方が **BABOK**[®] を活用することで、グローバル化社会ではより仕事がしやすくなると思います。より多くの方が **BABOK**[®] の理解を深め、仕事で活用いただければと思います。